

# 知恵の樹

No. 152 2010. 8. 18

町田の図書館活動を  
すすめる会

事務局：町田市森野 3-1-12 増山方  
〒194-0022 FAX 042-722-1243

—まちの図書館、いなかの図書館 1—

## 夏には怪談を

玉目哲廉

私が勤務していた熊本県大津町では、ボランティア活動が盛んであった。大津町は、熊本市から阿蘇に行く途中にあり空港まで町の中心部から車で15分位という立地にある。人口は3万人で、県内のほとんどの自治体が減少していたが例外的に隣の菊陽町と共に増加していた。

町には、小学校が6校、中学校が2校、県立高校が2校あり、大津高校はサッカーの強豪校で全国大会の常連である。

なお、小学校には嘱託の司書か司書業務を行う人が配置され、中学校には専任の司書が配置されていた。司書教諭は大規模校にはいたが、担任と兼務であった。

町の人たちのボランティア活動は、様々なイベント等で発揮されていた。各小学校には年間を通じ、週に1日朝の授業が始まる前に読み聞かせの時間があり、それに子どもたちの母親や読書ボランティアが各クラスに入っていた。

中学校は、前・後期制を採用していて、前期は6月か7月のどちらかで1週間通して各クラスに入り、後期は11月か12月に同じように入っていた。

私が勤務していた図書館でも「お話し会」をしていて、全職員がローテーションでお話し会を受け持っていた。そのようなこともあり、1つの中学校から読み聞かせに来て欲しいという頼みで何回か出かけたことがあった。お話し会で読む本には、季節感と対象者を考えないといけないが、対象者が特定されていると、何を読んであげたいかになっ

ていく。

ある7月の時は、ラフカデオ・ハーンの2つの作品を用意した。1つは「さめびとのおながえし」、もう1つは「耳なし芳一」小学館2006年刊であった。中学生に本を見せ、どちらがいいか聞くと怖い話がいいというので、「耳なし芳一」にした。声を出して読むと実際は30分かかかるのだが、時間は20分しかなく、丁寧に省略し、琵琶法師が平家物語を語り、怨念をもった亡者が話しに聞き入るということは十分伝わったようであった。

話しは変わって、別の所で大人のお話し会を開く機会があった。ある沖縄から疎開して戦後熊本で教職についた女の人が話しをしてくれた。戦争も激しくなり、今のうちに疎開をしようと熊本に来て、様々な苦勞をしたとのこと。しかし、疎開をしなかった同級生は、ひめゆり学徒隊で集団自決をして亡くなったと言われていた。自分は生き残ったという自責の気持ちで今まで生きてこられたということを感じた。

ある時、植木町(熊本にある地名)の図書館の人が言っていたが、植木では今も西南戦争の犠牲者を弔う行事を行っている。NHK大河ドラマ「竜馬伝」の中に西郷吉之助が出ているが、熊本は戦場にもなり、西郷軍に参加したという先祖を持つ人もいるし、官軍・西郷軍の兵士を区別無く治療し、日本赤十字社へとつながるというような歴史もある。8月は、戦争を考え、平和を考える月。

(元大津図書館長・会員)

町田市立図書館・記念すべき年 **2010年!** そして国民読書年

中央図書館開館 20 周年  
 金森図書館移転新築 10 周年  
 移動図書館「さるびあ」号 運行 40 周年

今年は国民読書年、そして、町田市立図書館においても記念すべき年です。移動図書館車「さるびあ号」や、金森図書館でも、職員が工夫を凝らして記念事業を行なっています。そのご報告と中央図書館での取組みについてお知らせします。

**金森図書館移転 10 周年記念特別事業**

金森図書館は、1974 年6月3日(現在の「ねむの木保育園」)に設立され、現在の地に移転したのが、2000 年7月4日です。

10 周年の感謝の気持ちと、金森図書館のあゆみを伝えようと特別事業を企画しました。

『10 周年記念年表と記念しおり』

移転後 10 年間の図書館の年表と記念のしおりを作成しました。年表は子ども達にも楽しく見てもらえるよう、絵や切り紙で工夫しました。また、貸出冊数やリクエスト件数の推移をグラフにして、利用の多い金森図書館の特徴が一目でわかるようにしました。しおりは、消しゴム判子や金森図書館でお馴染みの“すりリス”(右上)のキャラクターなど沢山の種類を用意しました。



結果大好評で、しおりを通して多くの利用者の皆さんに 10 周年を知ってもらうことができました。

『文学・児童 特集コーナー』

文学のコーナーは、10 年間のベストセラーの本を集めた特集コーナーを作りました。当時、読めなかった本や、もう一度読んでみたい名作と出会えるコーナーです。

児童のコーナーでは、10 年前にタイムスリップして、その頃の「みんなでよもう子どもの本」の紹介です。時は流れても、今なお輝いている絵本やお話がたくさんあることに気づかされます。

『紙芝居がはじまるよ〜』紙芝居師 かこ丸さんによる口演(2010 年 7 月 11 日 11:00~ 13:00~)

カーンカーンと控えめに拍子木の音が館内に響く



と、紙芝居が始まる合図です。おはなしの部屋に入るとまず目を引くのは紙芝居を乗せた自転車。かこ丸さんは昔懐かしい街頭スタイルの紙芝居師です。集まりだした人達にクイズを出しながら場を盛り上げていきます。シールやおもちゃが貰えるとあって、子ども達も真剣です。付添いできた大人もいつの間にか、かこ丸さんの世界に入り込んでいきます。そして、いよいよ「黄金バット」の登場です。昔ながらの絵やストーリーですが、生の迫力で引き付けていきます。すでにおはなしの部屋には 60 人程の人で溢れ、入りきれない人は入口から覗き込むようにして

見えています。続く「夢泥棒」の紙芝居も大いに盛り上がり、いつものおはなし会とは違った紙芝居の世界を子どもから大人まで十分堪能している様子でした。

『パパとじいじのための絵本あんない』

(7月18日(日)14:00~)

絵本を通じて、パパやじいじにも子どもたちと楽しい時間を過ごしてもらえたら・・・そんな思いでこの講座は開催されました。どんな本を、いつ、どのようにして、そしてどこで入手すれば良いか。

お父さんと女の子。おじいちゃんとお孫さん。おかあさん、おばあちゃんも。そして、中学生の女の子とたくさんの方が参加して下さいました。

絵本の読み聞かせや、手遊びを交えての話し、楽しんで耳を傾けてもらえたようです。

これからも、図書館が生活の一部となり愛し続けて頂けるよう、利用者の皆さんと共に図書館を作りたいと思っています。(金森図書館・二タ村、五明)



## 移動図書館そよかぜ号 (BM) の記念事業

1970年10月27日から運行を開始したそよかぜ号の40周年を記念して、さるびあ図書館と堺図書館は、共催で8月から移動図書館そよかぜ号の記念事業の準備を始めた。

予定されている事業と日程及び場所は次の通り。

- ① **パネル展示**(10月1日～31日、BM及び図書館内)・・・写真や歴史、巡回ポイントの地図などを掲示
- ② **ぬりえ**(配布は小学校の夏休み開始からで掲示は随時、BM及び館内で配布、図書館内で掲示)・・・対象は児童、図書館車の絵も募集
- ③ **ひとこと集**「そよかぜにひとこと」(9～10月BM及び館内で配布、館内で随時掲示)・・・利用者や職員に思い出や感想を募集
- ④ **BMクイズ**(9～10月、BM)・・・児童対象

⑤ **BM シール配布**(10月27日など)・・・そよかぜ号の誕生日や図書館車の展示日に配布

⑥ **BM 2,3号車の展示**・・・10月23日及び24日の14時～16時半、車庫前

⑦ **体験学習**(月・木曜日の午前中、小学校内)・・・希望する学校を訪問、図書館や図書館車の仕事や利用方法の説明、ミニお話し会や貸出しも実施

⑧ **パネル展示**「BMトリビア」・・・10月中、BM及び館内——など。

①～⑤は共同事業で⑥⑦はさるびあ図書館、⑧は堺図書館が行う。

現在、ぬりえを募集している。8月3日までに既に約300枚を配布済み、子どもたちに大好評だ。

(さるびあ図書館 市川昌幸)

## ～市民と共に祝う～ 中央図書館 20周年記念事業

1990年11月30日にオープンした中央図書館も、20年目を迎えた今年、読書や図書館の意義・重要性を改めて市民にアピールする機会と捉えて、通年を20周年記念事業として取り組んでいます。

また通年事業と重ねて、誕生日の11月30日前の1週間を20周年記念フェスティバル期間として位置づけ、市民も共に祝おうと動き出しました。まずは、図書館の登録団体に“中央図書館の誕生日・国民読書年のフェスタに各団体主体のイベントで参加しませんか”と呼びかけ、応じた団体で6月に市民主体の実行委員会を立ち上げました。図書館が事務局となって、団体から出された様々な企画についてスケジュール調整をしています。まだ全容が確定されていませんが、是非スケジュールに加えてご参加下さいますよう、予定・未定の分も含めて一足先にお知らせ致します。

### I. 年間を通じての記念事業

- 図書館主体**
- ・田宮俊彦氏コンサート 5/2 実施済
  - ・星空観察会 11月(日時未定)実施予定
  - ・としょかん寄席 12/12 実施予定(市民ホール共催)



- 市民主体**
- ・子ども講演会「皆越ようせい氏(写真家・絵本作家)」7/31 実施(野津田雑木林の会)
  - ・8/28(土)14:00～ 講演会「本が死ぬところ暴力が生まれる—子どもの発達と読書の関係—」  
講師:杉本卓氏(千葉工大教授)(⇒ 頁参照 NPO まちだ語り手の会)
  - ・11/21(日)『～読書で育てる子どもの世界～全国子ども読書推進フェスティバル in 町田』午前:子どもへのおはなし会=まちだ語り手の会、午後:講演会「読書で広げる子どもの世界」=講師・佐藤涼子さん(NPO 法人 東京児童文化協会)

Ⅱ. 「国民読書年」・中央図書館 20 周年記念フェスタ [11 月 23 日(火・祝) ～28 日(日) ]

**ぶらり・ライブラリー in 町田**

日程		ホール (6 F)	お話の部屋 (4 F)	中集会室 (6 F)
23 日 (祝)	PM	・オープニングセレモニー シンボルキャラクター表彰式 ・講演会「文学の力～ドストエフスキーと現代日本～」／講師: 亀山郁夫氏(東京外語大学長・ロシア文学者) (町田の図書館活動をすすめる会)	・ブックトーク 一本の CMー (町田ブックトークの会)	
24 日 (水)	AM	・母と子のわらべうた (かえで文庫・おはなしぐるんば)	・おはなし会 (みみづくもの会)	
		夜・朗読会 (花いかた)	昼・おはなし会 (児童担当)	
25 日 (木)	AM		・おはなし会(語りの会マザーリフ)	
	PM	・おとなのためのおはなし会 町田のゆかりの作家紹介と町田の民話(NPO 法人まちだ語り手の会)	・おはなし会 (おはなしはすの実)	
26 日 (金)	AM		お話し会 (児童担当)	
	PM	・スペシャル映画会／図書館司書がヒロイン「父と暮らせば」(図書館)	・乳幼児のおはなし会 (おはなし玉手箱)	
27 日 (土)	AM	・講演会(仮)「町田の歴史を訪ねる」 (町田地方史研究会)		
	PM	・講演会「原町田村古絵図」と「原町田宿ノ道巾八拾間」の検証／講師: 矢澤湊氏(町田史考会)	・おはなし会 (柿の木文庫)	
28 日 (日)	AM	・講演会「原つば」 講師: 内野秀重氏 (野津田雑木林の会)	・おはなし会 (おはなし如雨路)	
	PM	・講演会「語り合おう“学校図書館”の今、これから」 講師: 未定 (町田の学校図書館を考える会) ・検討中「町田市立図書館のこれから」		

小集会室 (6 F) …… 展示 / 地方史研究会

・展示 「市内の石像物写真」  
及び 町田 27ヶ村資料」等  
(町田史考会)

そのほかにも、図書館主催の催しが予定されています！

- ①障がい者サービス展示コーナー：点字板、点字タイプライター等機器の展示／録音図書等の視聴体  
点字板、点字タイプライター等機器の展示。録音図書等の視聴体験
- ② 20 年前の資料等展示
- ③ブッカー体験と修理・・・来館者にご自分のお気に入り本を持ってきてもらいブッカーを貼ろう
- ④バックヤードツアー・・・図書館の裏側をご案内 (申し込み制 20 名)
- ⑤20 周年記念キャラクター入りクリアファイルの配布 (2 F ゲート)・・・10 時～、15 時～、の 2 回、先着各 100 名様
- ⑥開館当時の雑誌展示
- ⑦キャラクター全応募作品 (139 点) の展示

詳細情報は実行委員会発行(9月末)のチラシ、「町田市広報」(10/21 日号)をご覧ください！

ぶらり ライブラリー～ さあ、みんなで図書館へ！

皆越ようせい氏(自然写真家)スライド上映とおはなし  
**「土の中の ふしぎな いきもの」**



2010年7月31日(13:30～16:30)  
 町田市立中央図書館 6Fホール  
 参加者:子ども 12名、大人 33名

「町田の図書館活動をすすめる会」と同会に団体登録をしている「野津田・雑木林」とで例年夏休みに開催してきた“子どもと自然と本をつなぐ”特別企画も、今年で7回目を迎えました。

毎年、中央図書館の児童担当と協力して回を重ねてきた企画ですが、今年は中央図書館 20 周年記念の協働事業として取り組むことになりました。

7月末の開催に向けて、7月の初めには児童書フロアの入り口の壁面いっぱい、児童担当の方々が意欲的なディスプレイを、そこに、皆越さんが提供して下さったパネル展示と。

当日は、赤ちゃんをひざに抱えたお母さん、ムシ大好きな小学生、孫がムシ大好きというおばあちゃん等など、幅広い方たちが訪れてくれました。

皆越さんは、美しいスライドを流しながら、身近にぐらす土壌生物の不思議な生態を興味深く伝えながら一息状態の変化による生命の危機も一、しなやかに硬軟とりまぜて、生きものを知る楽しさを語って下さいました。

「本」とはまたちがう「講演会」という出会いによって、作者からより一層深い情報を得ることもかけがえのないこと。これからも、このような場を図書館と共に一と、願っています。(久保礼子/会員)

### 身近なムシたちの驚異の世界

皆越ようせいさんの講演会を聞く機会を得た。以前より、『うみのダンゴムシ・やまのダンゴムシ』(岩崎書店, 2009. 5)などの児童書で皆越さんの小さな土中生物への愛情あるふれる写真を拝見していた。子どもたちもダンゴムシをはじめ、落ち葉の下や庭木の陰にひっそりと息づく小さな命に関心を寄せ、皆越さんの本に魅せられていた。あの写真はどの様に撮影したのか? など、土中生物を観察し撮影したときの様子を多くのスライドと優しい語り口でご説明い

ただいた。

ダンゴムシとワラジムシの違い、ダンゴムシが体の真ん中から前後に脱皮するとか、日頃見かけるムシたち

の驚きの様子を知った。またハサミムシの母親は卵から子どもたちの世話を続け、最後はその体を子どもたちの食料として朽ち果てる。しかもその命がけの子育ての様子を皆越さんは暖かいまなざしで見届ける。身近なムシたちの驚異の世界を子どもたちにもわかりやすく紹介して下さった。小さなムシたちを愛おしく見つめる皆越さんの気持ちが伝わってくる講演会だった。

翌日から、道を横切るダンゴムシに対する眼差しも変わってきたように思う。講演会に参加し多くの子どもたちが、小さな命に関心を寄せ、その大切さを知ったのではないだろうか? そして、大人にとっては、ハサミムシの子育て(勿論ハサミムシは本能で動いているのであるが)に、親子のあり方、大人の責任を教えられた。落ち葉の中を歩くときには、そっと歩こう。小さな命を傷つけないように。そして落ち葉や石の下をのぞいてみよう。(山口 洋/会員)

かえで文庫 30 周年記念講演会

## 絵本にのせる メッセージ



講師: ひろかわ さえこ さん

日時: 9月11日(土) 10:30～12:00

場所: 成瀬センター・1Fホール

無料・直接会場へどうぞ!

**講師紹介** 武蔵野美術大学商業デザイン科を卒業、幼児教育に携わられた経験を持つ絵本作家です。主な作品に『おやすみなさいの前に』、「かばくん」シリーズ、「ことばであそぼ」シリーズ他、乳幼児向けの絵本をたくさん出しておられます。

主催: かえで文庫

協力: 成瀬センター運営委員会

問合せ: 砂川(042-729-8728)、伊藤(725-3940)

～公共図書館における知的障害者へのサービス～ 鈴木 薫

特別支援学校の高等部では、3年間の間に何回か実習を行う。職場とはどのようなところかを知り、どんな仕事ならできそうなのかを見極めていく。実習先は生徒の障害程度に合わせたものだが、地域によっては公共図書館も受け入れ先となってくれている。実習は生徒の仕事として行われるわけだが、こういった機会からでも地域の中に知的障害者や発達障害者が受容される基盤ができていくてくれるといいと思う。

公共図書館における障害者を意識したサービスというと、視覚障害者のための点字や、肢体不自由者のためのバリアフリーを思い描く。だが、知的障害者へのサービスといわれても、具体的に何ができるのかは、いまいちピンとこないかもしれない。LLブックをそろえればサービスになるだろうか。読める本があるということは、利用する価値があるということだ、それはとてもいいことかもしれない。だが、その本を探し出せなければ、利用のしようもない。

墨田区立あずま図書館では、1997年から地域の福祉作業所への出張貸出しを行っている。地域の公的施設として図書館が、知的障害者に様々な援助を行う意味は大きい。だが、障害者が図書館へ足を運んでまで利用するには及ばない。図書館の利用方法や案内が、いまだ利用者には難しいからだ。今の書架構成では、利用者が自力で本を探すのは困難だろう。また、ニーズの面からいえば、現在よりも漫画や流行CDなど資料選択の幅を広

げることも必要だ。より視覚的にわかりやすい利用案内や、書架案内をすることも大切になる。漠然とイラストを増やすだけでなく、ピクトグラムという一種の絵文字は、白地にはっきりとした黒の2色で表されているので、視覚支援としてわかりやすい。出張貸出しで使われている、文字が大きくルビのついた簡潔な利用案内は、一見すると情報量が少なく味気ないものに見える。だが、余計な情報量がそぎ落とされているからこそ、わかりやすいものになっているともいえるのだ。

墨田区立あずま図書館の出張貸出しのなかでは、視覚障害者用の拡大写本を流用したという話があった。ただ、あくまで拡大写本は文字を大きくしているだけなので、知的障害者へのサービスとしては、小さい本よりは見やすいというだけにとどまる。やはり、これまでに紹介してきたような、LLブックやマルチメディアデージーといったメディアが不可欠だろう。

ただ、マルチメディアデージーの利用は、知的障害者の生活環境で、どの程度パソコンを自由に操作できる環境があるかにかかってくる。利用者本人が図書館に来て、サービスを利用する環境を整えることが大切だということだ。

一次号へ続くー

【参考】

藤原和子・服部敦司(編著)『LLブックを届ける』読書工房、2009

(都立特別支援学校教員/会員)

(独)福祉医療機構平成22年度助成金事業/町田市立中央図書館20周年記念イベント

講演会「本が死ぬところ暴力が生まれる —子どもの発達と読書の関係—」

講師：杉本 卓 氏 (千葉工大教育センター教授、『本が死ぬところ暴力が生まれる』(新曜社)記者)

日時：8月28日(土)14:00~17:00 資料費:500円

場所：町田市立中央図書館6Fホール (先着100名) 直接会場へどうぞ!

主催：NPO法人 まちだ語り手の会 (事務局 ☎&FAX 042-795-3022)



**町田市内 5地域／4回連続 読書ボランティア基礎講座を開きます！**

NPOまちだ語り手の会では、今年度、独立行政法人福祉医療機構の助成金を受けて「子どもの読書環境の向上を図る事業」を市立図書館および関係各署の協力を得て行なっております。

この事業は、地域の図書館・子ども施設等との連携をはかり、“市内すべての子どもたちが、身近に本に接する場所があり、楽しい本の世界に案内してくれる人がいる読書環境を整えること”を目的とし、町田市の全公的機関での読書ボランティア活動の「実態アンケート調査」(調査中)、子どもと本を結ぶ人たち対象の「講演会」(6p下)、そして、身近な地域で気軽に受けることができるように「市内5箇所にての4連続ボランティア講座」を行うものです。

町田市の子どもの読書環境、読書ボランティアの現状を把握することで、ボランティアの人たちが、行政と協働で市内全ての子どもが読書をたのしめる環境がすこしでもよくなれば、と願っています。(増山)

**本・お話の世界を子どもたちに**

【受講料】4回連続 1,000 円  
お申込は事務局 (042-795-3022) へ  
各会場とも**30人**で締め切ります

- 第①回 子どもと本と大人の関わり—読書ボランティアとは—
- 第②回 読み聞かせの実際 一本の選び方・読み方—
- 第③回 ストーリーテリングの実際 —おはなしの選び方、語り方—
- 第④回 さあ、皆さんも、読み手に 語り手に！ —受講生による実践—

講師 ①＝広瀬恒子さん(親子読書地域文庫全国連絡会代表)／④＝増山正子(NPOまちだ語り手の会代表)

- ②③(下記参照)＝富本京子さん(山の木文庫主宰)
- 平塚ミヨさん(国立おはなしの会)、
- 大塚佳苗さん(立川おはなしボランティア)

◎地域講座は、下記の5つの会場で行います。原則的には、住んでいる地域を優先して受けてください。

講座開催場所 <日程> 午前＝10：00～12：00、午後＝14：00～16：00	②③講師
町田市立中央図書館6F中集会室〔①10/23 ②11/6 ③11/20 ④12/4 土曜日・午後〕	富本京子さん
成瀬駅前センター 第1会議室AB〔①10/14 ②10/2 ③11/11 ④11/25 木曜日・午前〕	平塚ミヨさん
玉川学園文化センター第2・3会議室〔①10/4 ②10/25 ③11/8 ④11/29 月曜日・午後〕	富本京子さん
①④忠生市民センター・②③木曾山崎センター〔①9/17②10/1③10/15④10/29 金曜日・午後〕	大塚佳苗さん
堺市民センター 第1会議室〔①9/10 ②9/24 ③10/8 ④10/22 金曜日・午後〕	大塚佳苗さん

**第13期 第9回 町田市立図書館協議会 報告** 7月29日9時30分～12時開催

<館長報告>

1. 鶴川駅前公共施設内図書館の進捗状況・・・2010年7月末までに実施設計確定(詳細な配置図が完成)／10月の議会へ諮り、2011年1月着工、2012年5月竣工、図書館開館は同年10月予定／図書館部分は1200㎡、9万冊収納予定、建物全体は指定管理で図書館部分は直営
2. 「2010年度町田市教育委員会の施策等の点検及び評価報告」(点検評価シート)・・・表記報告にて図書館については、重点施策として「図書館活用の促進を図る」を掲げ、現状分析及び取組事業の計画、結果、評価および成果、課題、展望を示した。9月市議会に行政報告の上、市民に公開される予定。

<協議事項>

2009年度実施の図書館評価についてその外部評価を協議会が行うことになった。  
図書館評価については、全43項目(2009年度)について①各担当部署で内部評価し、②それを係長会議で検討③館長の総合評価の3段階を経て取りまとめられた。評価についてはABCの3段階で評価対象事業について中期計画、単年度取組目標、取組結果(文章及び数値にて表記)、自己評価が示され、この全てについて協議会が外部評価、及びコメントを付す予定。自己評価までは8月に公開予定。外部評価(協議会評価)は10月予定。  
協議会としては、全43項目を大項目にそって4つに分け、委員が4グループ(1委員は2グループに参加)に分かれ、委員全員から寄せられた各項目のコメントをグループ単位で集約し、評価とコメントを作成、9月末の協議会の席上で確定する予定。そのため、8月から9月にかけて、各グループ単位での検討会、全体の検討会などが予定されること。(文責:山口洋:会員、図書館協議会委員)



# ひろば

## 〈例会報告〉

7 / 21(水)18:00-20:10  
 中央図書館中集会室  
 会報 151 号印刷(16:00～)  
 伊藤、丸岡、増山

出席者：石井、伊藤、片岡、久保、近藤  
 斎川、玉目、手嶋、増山、丸岡  
 守谷、水越、山口、吉村

～三三五五集ってくるために、ワイワイ  
 ガヤガヤのお喋りから～

- 中央図書館 20 周年記念事業について(2-4p 参照)・・・6月29日(火)に第2回実行委員会が開かれ、委員長を水越さん、副委員長を丸岡さんが引き受けてくださる。図書館が事務局として動くことで、官民協働体制でスタート。事業に参加する団体は、各団体が実施するイベントに関して主体性を持ち、会の責任において行なうことを確認する／図書館のキャラクター募集に、既にたくさんの応募が来ている。
- すずめる会の会計担当は片岡さんから石井さんに交代。片岡さん、ご苦労様でした！
- 新入会員に松野幸雄さん(150 号巻頭言参照)・・・秦野在住のため会報会員に。
- 図書館の問題を話し合う・・・現行の定数管理計画は、2011年度で終了するが、2012 年以降の経営計画がまだ決まっていないので、囑託としては不安／定員削減について、法律上国は各自治体に指示・命令を出せない。それは、地方自治体のトップの権限になっている／図書館は、来年あと 5 人減らすことで現行の計画はクリアする／鶴川図書館の運営方針は年内に決まりそう／返却が遅れすぎている人の貸し出し停止のためのチェック項目が多く手間がかかり大変／有効登録者数 24% で減ってきている・・・／子どもが帰宅していない 15 時に B M がくる。小山田桜台のような図書館のないところはもっと遅くしたら利用が格段にあがるのではないかと／子どもが休みの土曜日におはなし会をできないか／今は人が組めない。夏休みなどプラスアルファの人が出て対応している。職員対応の仕組みをえればできないことはないが・・・／100% ボランティアにたよればできるのでは？／図書館が丸投げするには一定のレベルが保たれていることの確認が必要となる／今の個人ボランティア体制では、日程調整をする職員の労力だけでも大変。個人ボランティアではなく団体を相手

20 10年度 第6回 文学館(主催)で楽しむ

おとなのためのおはなし会

9月16日(木)10:30～11:30

町田市民文学館 2F大会議室

## プログラム

- \* ゆかりの作家「山中 恒」 佐羽悦子
  - \* うりこひめこ(日本の昔話) 増田佳恵
  - \* 天台の榎の木(町田の民話) 菊池とも子
  - \* ねずの木の話(グリム童話) 西村敦子
- 直接会場へどうぞ！ 語り: まちだ語り手の会



にして行わない限り、ボランティアとの協働は難しいのでは？／職員も加わってやれたら尚よい。

- 図書館内部評価について・・・9月奈良で行われる日本図書館協会主催の図書館大会で、町田市立図書館の内部評価(43項目)について報告をする。ホームページにも載せるので見て欲しい。このあと協議会の評価を受けるが、内部では概ね良好の評価が出ている。
  - 指定管理が導入された山内図書館(横浜市)で「市民の目から図書館をどう総括するか」といった報告があったので聞いてきた。まだ3ヶ月の実績なので、評価といえるかどうか分からないが、図書館ボランティアの人が、別に問題ないというような報告があり、驚いた／表面だけを捕らえると、一時的に良くなっているところがある委託とか指定管理の問題は、5年、10年スパンで顕在化してくるものではないか／町田市においても、市政の中枢をなす人々のなかに「図書館が大事」という意識が薄いのではないかと、心配している。
  - 7月31日の皆越氏の講演会の役割分担・・・受付: 吉村・伊藤/資料作成: 水越/設営: 開場1時間前に集合して全員で。(5P参照)
  - かえで文庫30周年記念講演会で講師をされることになっていた長谷川撰子さんが病気のため、ひろかわさえこさんに変更しました。(5p)
  - 読書ボランティア講座のお知らせ(7p)
  - 8月18日の例会は、“熊”にて夕涼み会
  - 9月の例会はいつも通りありますが、会報は、編集者の都合で休刊とさせていただきます。
- あとがき** 連日猛暑が続いている。クーラーがない我が家の2Fの室温は36度はざらで39度を越す日も何度かあった。保冷剤を首に巻いてパソコン作業をしているが、パソコンも爆発するのではと思うほど熱くなる。そのため時々気休めに団扇で扇いでやる。車の排気ガスをなくし、冷房を止め自然の風をと願うのだが、文明は後戻りできないという。そろそろ年も取ってきたし、反発心を捨て快適さと便利さに迎合するしかないか・・・。(M)